

別添

1.麻疹

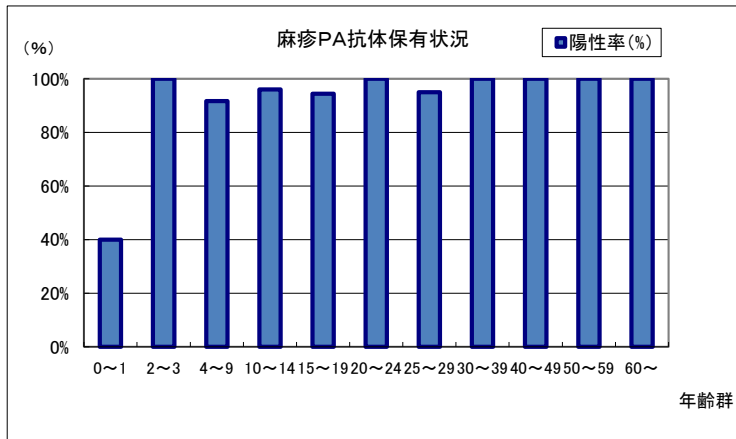
1) 検体数

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
検体数	15	4	24	25	18	23	20	23	15	27	24	218

麻疹は合計218検体についてゼラチン粒子凝集 (particle agglutination: PA) にて麻疹PA抗体価を測定した。各年齢群の指定検体数は22であったが、0～1歳、2～3歳、15～19歳、25～29歳、40～49歳の年齢群で指定数に達しなかった。

2) 麻疹PA抗体保有状況(%:PA価16倍以上陽性)

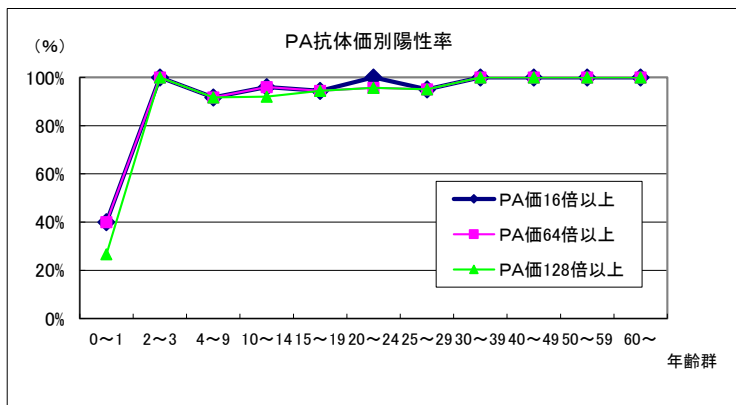
年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～
陽性率(%)	40.0%	100.0%	91.7%	96.0%	94.4%	100.0%	95.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



麻疹抗体保有状況は、2～3歳、20～24歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60歳以上の年齢群で100%であった。0～1歳、4～9歳、15～19歳の年齢群で陽性率が95%を下回った。なお、0～1歳の年齢群では昨年度より大幅に低下した(昨年度は77.8%)。

3) 麻疹PA抗体価別陽性率(%)

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～
PA価16倍以上	40.0%	100.0%	91.7%	96.0%	94.4%	100.0%	95.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
PA価64倍以上	40.0%	100.0%	91.7%	96.0%	94.4%	95.7%	95.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
PA価128倍以上	26.7%	100.0%	91.7%	92.0%	94.4%	95.7%	95.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



抗体価は修飾麻疹を含めた発症予防可能レベルを考えるとPA価128倍以上が望まれる。令和3年度はPA価128倍以上の陽性率が2～3歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60歳以上では100%であった。4～9歳、10～14歳、20～24歳、25～29歳は90%以上であったが、0～1歳は30%を下回った。平成17年度以降、0～1歳の年齢群において、PA価128倍以上の陽性率は低い傾向にあったが、これまで、30%を下回ったことは無かった。過去、2007年に10代、20代を中心とする麻疹の流行が起こっていることから、今年度、PA価128倍を下回った0～1歳の抗体保有状況および抗体価の動向については注視する必要がある。

確実な免疫を得るために、2回の定期接種を受けることが重要である。麻疹の罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合には予防接種を受けること、また、接種歴が1回のみの場合や流行国に渡航する場合等には、2回目の予防接種を検討する必要がある。

別添

2.新型コロナウイルス感染症

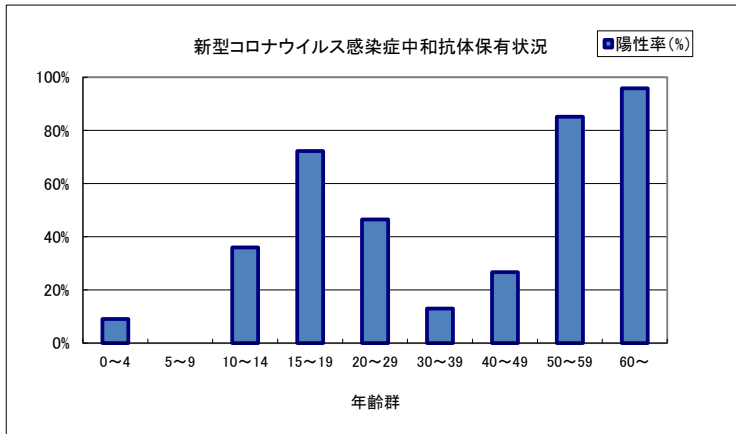
1) 検体数

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
検体数	22	21	25	18	43	23	15	27	24	218

新型コロナウイルス感染症は合計218検体について、新型コロナウイルス感染症中和抗体価を測定した。各年齢群の指定検体数は22であったが、5～9歳、15～19歳、40～49歳の年齢群で指定数に達しなかった。

2) 新型コロナウイルス感染症中和抗体保有状況(%: 中和抗体価5倍以上陽性)

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～
陽性率(%)	9.1%	0.0%	36.0%	72.2%	46.5%	13.0%	26.7%	85.2%	95.8%



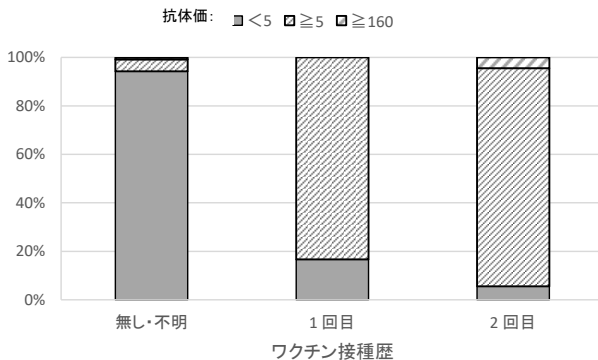
新型コロナウイルス感染症抗体保有状況は、50歳以上の年齢群で80%を上回り、10～29歳で30～80%、30～49歳で10～30%、0～9歳で10%未満となった。これらの差は検体採取時期におけるワクチン接種機会の差によるものと考えられた。30～49歳の受検者の多くはワクチン接種が開始された昨年夏頃の検体採取であり、10歳未満は昨年はワクチン接種対象外であったために未接種者が多かった。一方で、10～19歳及び50歳以上の多くは、ワクチン接種の進んだ昨年末に検体が採取されたため既接種者が多かった。なお、新型コロナウイルス感染症の罹患歴がある受検者は、218名中1名で年齢群は10～14歳であった。

ワクチン接種対象年齢ではない0～4歳の年齢群において陽性率が9.1%(22名中2名陽性)あった。陽性であった2名は新型コロナウイルス感染症の罹患歴は確認されなかった。内1名は、乳児であり、母親のワクチン接種歴が不明ではあるが、海外において母子免疫による抗体移行が報告されていることから、母子免疫による抗体価の上昇の可能性が示唆された。

3) 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種歴ごとの中和抗体価別陽性率(%)

抗体価	<5	≥5	≥160	合計(名)
無し・不明	94.3%	4.9%	0.8%	122
1回目	16.7%	83.3%	0.0%	6
2回目	5.6%	90.0%	4.4%	90

新型コロナウイルス感染症ワクチン接種歴別の中和抗体価の陽性率



新型コロナウイルス感染症ワクチン接種歴ごとの中和抗体価別陽性率は、ワクチン接種歴無し・不明は、抗体価5倍未満が94.3%、1回目接種は、抗体価5倍以上が83.3%、2回目接種では、抗体価5倍以上が90%となった。2回目接種においては、ワクチン接種歴無し・不明および1回目接種に比べ抗体価160倍以上となる割合が上昇した。また、接種回数が増加するにつれ、抗体価5倍未満の割合が低下した。なお、新型コロナウイルス感染症の罹患歴がある10～14歳の受検者については、ワクチン2回目接種済みであり、抗体価は10倍であった。